

「全鍍連」 2023年 3月号 若者から一言

大阪府鍍金工業組合

大阪青年鍍金研究会 会長 寺内 亮一（日本電鍍工業(株) 代表取締役）

「全国の青年部との出会いを通じて」



大阪青年鍍金研究会（呼称：青研会）会長の寺内亮一です。まずは、昨年（2022年）の11月12日に帝国ホテル大阪で開催いたしました、当会40周年記念祝典には、全鍍連の方々をはじめ、全国の青年部の皆様にたくさん駆けつけていただき、誠にありがとうございました。お陰様で記念祝典を盛大に執り行うことができました。

私が青研会の会長に就任したのは、一昨年（2021年）の2月で、ちょうど2回目の緊急事態宣言下でありました。同月にはまん延防止等重点措置という新たなルールも設けられ、みんなで集まることも難しく、膝をつきあわせてお酒を飲むなどもつらかったという状況でした。様々な会合が中止となるのが当たり前となっている中で、記念祝典を開催することを前提として、準備を進めていくには、物理的にも精神的にも辛かったです。40周年に積み立てたお金をそのまま残し、50周年に託すということさえも頭をよぎりました。

その時、会長職を受ける数年前から「未来を担う若手の集い」を通じて、各地域の青年部の方々から教わった様々なことを思い出しました。特に初期の旗振り役であった埼鍍会の饗場さんから、「僕たちは老いるにはまだ早い、何かできることがあるはず」（深夜に大宮駅前の焼肉屋さんで）という言葉が、とても印象に残っていました。

コロナ禍という逆境だからこそ、青年部の出番ではないかと考え、飲食が難しくれば祝宴なしの祝典を行えばいい、集まるのが難しくれば記念誌だけでも発行できればいいと、やめることを考えるのではなく、できることを考えてやっていこうという発想のもとで、青研会の執行部および幹事のみならず準備を進めていくことができました。準備をしていく中で、オンライン飲み会もしましたし、祝宴のない新春交歓会も行いました。（どちらも2回目をやろうとはなりませんでしたが・・・）このみんなで何かしようという活力が、40周年祝典の開催につながったと思っています。

青研会の事業を通じて、各地域の青年部の方々と交流することで、人脈形成だけでなく、様々な気づきが生まれました。そしてまさにこれからのめっき業界の「未来を担う若手」の刺激になれば、先輩達からの教わったことの恩返しになるのではと思っています。私は今年2月で会長職を退きますが、これからも大阪青年鍍金研究会と交流していただき、互いに刺激し合える関係を築いていければと思いますので、今後とも青研会をよろしくお願いいたします。